# 今月の焦点

## 海外経済金融

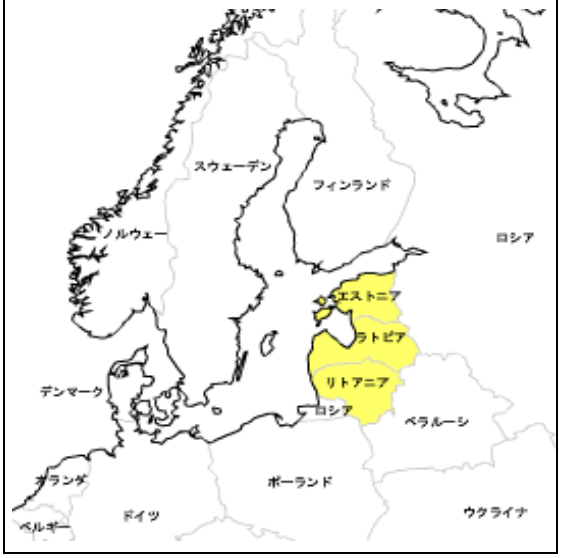
# バルト三国とスウェーデンの銀行

荒木　謙一

### バルト三国経済を支える海外資金

バルト三国は、エストニア、ラトビア、リトアニアの総称である。この地域は近年、海外資金の導入により高い経済成長率を達成してきたが、世界的金融危機の発生後はその影響を最も深刻に受け、経済が混乱状態に陥っている。

第1図　バルト3国の位置




第1表　バルト3国の概要

| | エストニア | ラトビア | リトアニア |
|---|---|---|---|
| 人口 | 約134万人 | 約226万人 | 約335万人 |
| 面積 | 4.5万km$^2$ | 6.5万km$^2$ | 6.5万km$^2$ |
| 名目GDP（億ドル） | 245.8 | 357.8 | 500.8 |

【出所】外務省HP、Datastream、名目GDPは2008年のデータ

かつてソ連邦の一部を形成した三国は、ソ連崩壊直前の 1990-91 年にかけ相次いで独立を宣言した。2000 年以降は経済の自由化が進展、海外からの資金流入に支えられた高度成長を果たし、バルティック・タイガーの異名をとるに至った。しかし世界的金融危機の発生により、同地域経済の安定性に対する懸念が高まり、海外勢が資金の引きあげを図った結果、国内金融システムが麻痺、現在は深刻な景気後退に直面している。

07 年の三国の国際収支統計から同地域の資金フローを見ると、大幅な貿易赤字（▲164.5 億ドル）を、投資収支の黒字（168.3 億ドル）でファイナンスしている姿が一目瞭然である（第２表）。投資収支の中ではその他投資の受取超が大きく、その他投資の中では銀行部門の受取超が 115 億ドルと大きい（第２図）。

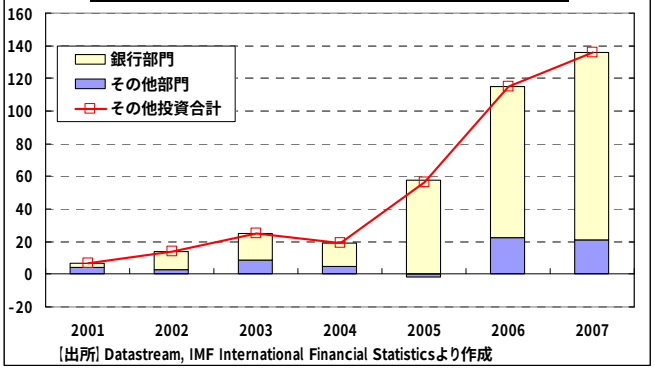
第2表　バルト3国の国際収支状況（2007年）

（単位：億ドル）

| | | |
|---|---|---|
| 経常収支 | | ▲159.5 |
| | 貿易収支 | ▲164.5 |
| | サービス収支 | 29.2 |
| | 所得収支 | ▲41.3 |
| | 経常移転収支 | 17.0 |
| 投資収支（財務収支） | | 168.3 |
| | 直接投資 | 44.4 |
| | 証券投資 | ▲13.8 |
| | 金融派生商品 | 1.6 |
| | その他投資 | 136.2 |
| 資本収支 | | 15.1 |
| 外貨準備増減 | | ▲23.1 |
| 誤差脱漏 | | ▲0.8 |
| 合計 | | 0.0 |

【出所】Datastream, IMF (International Financial Statistics) より作成、表示方式は原データに準拠

第2図　バルト3国・その他投資（投資収支勘定）の推移




【出所】Datastream, IMF International Financial Statisticsより作成

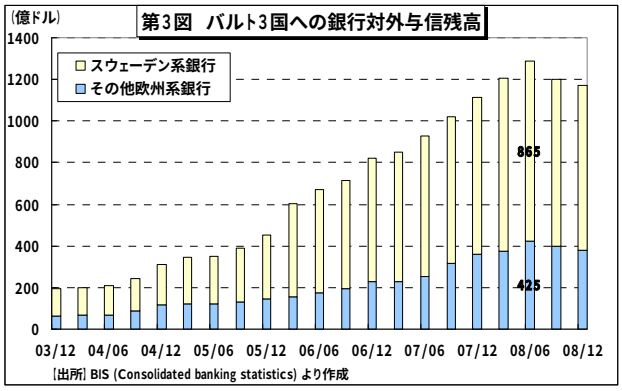
なお、銀行部門の受取額のかなりの部分が短期借入金であると見られる。この短期資金の借換えをおこなわずに、海外勢が回収を図ったことが同地域の経済危機の発端となった。



ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます

## バルト三国とスウェーデン系銀行

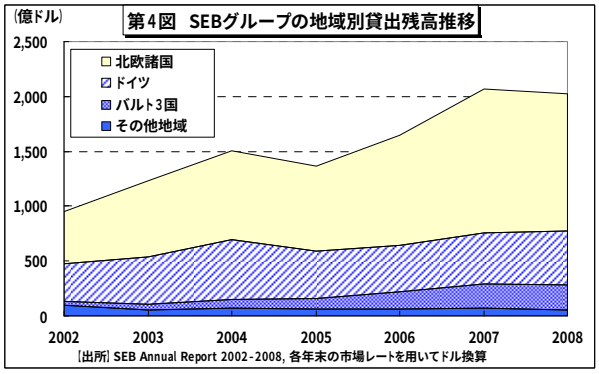
三国に対する資金の出し手としては、スウェーデン系銀行の存在が無視し得ない。BIS の国際与信統計から、欧州系銀行の三国に対する対外与信残高を見ると、スウェーデン系銀行の占めるシェアは極めて高い（第３図）。



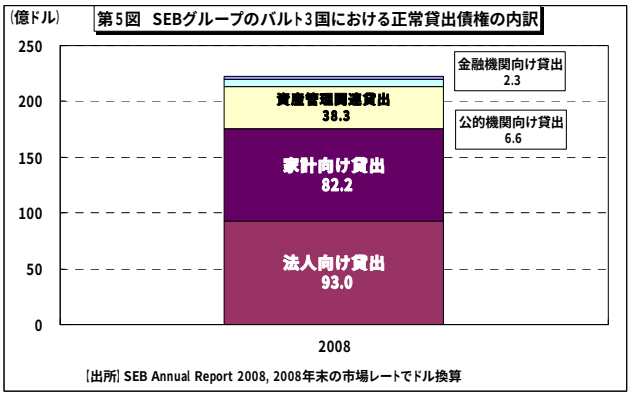

(注) 対外与信残高にはバルト三国内の連結対象子銀行による現地与信を含む。

スウェーデン系銀行がこのようなポジションを有するに至った経緯について、資産規模でスウェーデン国内第２位の商業銀行 SEB グループのケースを、同グループの年次報告書で調べてみた。同グループは 1998 年に三国の国内第２位行をそれぞれ買収、その後３行に対する出資比率を高め、01 年までに完全子会社化した。

同グループの積極的展開の背景には、成熟し競争が激化したスウェーデン国内市場での収益性の低迷がある。SEB グループはかかる展開の前に母市場（Home Market）の再定義をおこなっており、スウェーデン一国の銀行から、他の北欧諸国、バルト三国、ポーランド、ドイツを含む広いエリアを母市場として自らの位置づけを見直している。




SEB グループの貸出全体におけるバルト三国の比率は直近でも１割強程度に過ぎないが、残高は近年目立って伸張してきた（第４図）。貸出残高の構成は、法人向け貸出と家計向け貸出で大半を占める（第５図）。




## 問題の所在はどこにあるか？

90 年代初頭の金融危機から脱しつつあった北欧では、北欧４ヵ国の銀行連合ノルディアの出現など、国境を超えた銀行再編が進みつつあった。こうした中、スウェーデンの銀行にとってバルト海の対岸に現れた未成熟市場は、極めて魅力的に映ったことであろう。

またバルト三国は他の東欧諸国とともに 04 年に EU 加盟を果たした。スウェーデン系銀行の地域的拡大戦略は、経済統合の果実を享受するための先行的行動であったとも考えられる。

スウェーデン系銀行にとってバルト三国は母市場の重要な一部分であるものの、分散された投資の中で、三国の構成比はそれほど大きなものではないため、三国経済の不調が銀行経営に負の影響を与えたとしても限定的なものにとどまる可能性もある。

しかし三国の側から見た場合、スウェーデン系銀行による与信残高は同地域の名目 GDP の７割超にも達するため、スウェーデン系銀行の与信姿勢の変化がそのまま国家経済の死活につながる。金融のグローバリゼーションが一国・一地域の経済に内包されるリスクを高めたひとつの類型として捉えることが可能であろう。

（09.06.23）



ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます